

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2023 KIRYU Days—昨日の明日、そしてこれから」から

片山真理さんは1987年、埼玉県生まれ。2012年東京芸大大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。自身にとって最も重要なことは身体を伴って経験することであると語ります。近年では「選択の自由」を掲げた「ハイヒールプロジェクト」を開始し、義足の特注ハイヒールを装着し多岐にわたる活動を展開しています。片山さんは学生時代から頻繁に大川美術館を訪れてきました。展示室では、一つ一つの作品の筆跡を追い、作家が立ったであろう場所に立ち、その制作の時間に思いをはせた、

と振り返ります。いずれも自身の身体をとらえています。鏡面状の作品の前に立てば、見る者の姿をも映し込みます。鑑賞者は、画面と向き合うほどに、作品と境目のない往還を体感し続けるかもしれません。しなやかなる屹立(きつりつ)の質感をともないつつ、時間の奥行きをつかまえに行くような両作。国内外で活躍を続ける片山さんの新たなセルフポートレートは、力強い抽象性を感じさせます。(小此木)

※25日(土)午後2時から展示室で片山真理さんのアーティストトークを開催。

右:「right one#001」
左:「lefty#001」展示風景

2019年、クリスタルプリント
120.0cm×80.0cm(作者蔵)

※撮影:木暮伸也

片山真理 (1987年)

